



Business Story

福祉・介護分野で「起業家マインド」を学ぶ

学びを活かして 社会を変えるプロになる

「地域」や「自分」の課題に向き合い、社会的起業にたどりついた先輩たちの **STORY!**

SDGs 学習や探求的な学びを通して地域の困りごとや課題に出会い、様々な立場の人たちとつながりながら、若者らしいアイデアで社会を変えていく。そんな「起業家マインド」の育成が、今、期待されています。ニーズが増え続け成長し続ける福祉・介護分野には、社会的起業の成功例があふれています。福祉・介護の現場に飛び込み、社会的起業に至った先輩たちの事例から「起業家マインド」を学びましょう。

起業家教育とは (アントレプレナーシップ教育)

- 起業家精神（チャレンジ精神、創造性、探究心等）と起業家的資質・能力（情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等）を有する人材を育成する教育です。
- 起業家や企業経営者だけに必要な特殊なものではありません。高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら、新しい価値を創造する力など、これからの時代を生きていくために必要な力の育成のために起業家精神と起業家的資質・能力の育成をするための教育です。

取組方法の例

社協のプログラムもご活用ください

起業家・経営者など外部講師を講演

訪問講座へ

創業経営者の施設・事業所での体験学習

職場体験へ

課題解決のアイデア検討

共生みらいアイデアコンテストへ

企業・地域団体等との共同プロジェクト

参照：「生きる力」を育む起業家教育のススメ（経済産業省、文部科学省）

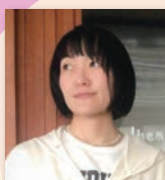
福祉・介護の分野で、社会的起業に至った県内の事例を紹介します！



社会福祉法人
森と木
代表 岸田 隆さん



飯山北高校卒業
20代 知的障害者施設でボランティアを体験
信州大学教育学部卒業後、学校へ勤務
30代 (1994年)「家族支援センターワズハウス」を設立
(2003年) 法人格を取得し、社会福祉法人森と木として、共に暮らしやすい地域づくり等幅広く事業を展開
現在 (2022年) 従業員約400人、年間事業費約12億円へと成長



株式会社
ゼロへの道のり
代表 高山 さや佳さん



長野南高校卒業
20代 東京動物専門学校卒業後アルバイト生活
アメリカへ語学留学
30代 (2011年) ボランティア団体 Happy Spot Club 設立
40代 (2019年) 株式会社 ゼロへの道のりを設立し、宅幼老所 和らぎの家スタート
(2021年) 長野市内の古民家を活用し、みんなの居場所「かえるのいえ」スタート



一般社団法人
生活互助支援の会
理事 美齊津 康弘さん



福井県立藤島高校卒業
20代 防衛大学校卒業後、実業団アメフト選手になり日本一を経験
30代 ヤングケアラーであった自身の体験をふまえ、介護に関わる仕事を指すヘルパー2級、介護福祉士、介護支援専門員の資格を働きながら取得
40代 (2018年) 買い物ボランティアマッチングサービス「えんじよるの」を開発運用
(2021年) 一般社団法人 生活互助支援の会を設立し事業展開

3人のストーリーと皆さんへのメッセージは裏面をご覧ください。



福祉・介護分野で「起業家マインド」を学ぶ

学びを活かして
社会を変えるプロになる

Business Story

Business Story

社会的起業にたどりついた
先輩たちのメッセージ

学生の頃からの学びと体験、そして生徒の皆さんへのメッセージを執筆いただきました。



Business Story

社会福祉法人
森と木
代表 岸田 隆さん

高校3年のボランティアで感じた違和感。「諦めない」心で、地域を支える事業へと成長。

僕が障がいのある人の福祉に関心をもったのは40年前の高校3年の夏。知的障がいのある人が暮らす入所施設にボランティアに行ったのがきっかけだった。当時は知的障がいのある子どもたちは学校を卒業すると人里離れた施設に入所するというのが一般的だった。僕は知的障がいのある人が集団で暮らす施設の暮らしに違和感や疑問を感じていた。障がいのある子どもの親は「親亡き後」の心配から施設に預けるしかなかったという。障がいのある人が地域で当たり前暮らしていけるサービスや支援体制がなかったからだ。

大学を卒業し、特別支援学校や障がい者施設で数年働いた後、1994年の春に仲間1人と「家族支援センターワンズハウス」を立ち上げた。1時間500円で障がいのある子どもを一時預かりする事業所だ。子ども達の放課後支援や移動支援、余暇支援、宿泊支援など地域で生きていくためのサービスを展開した。公的

な制度ではないため、運営は利用料でまかなっていたが、それで足りるわけではない。行政に働きかけ、開設2年目に時間単位で様々な支援が受けられる「タイムケア事業」が長野県に誕生した。画期的であった。開設10年後に社会福祉法人となり、現在は障がいのある人の地域生活を支える事業を幅広く展開し、年間事業費は12億円。一緒に働くスタッフは約400人となった。

30年前、まだ誰もやっていない事業を始めるのは正直怖かった。しかし、不安の中でもかすかに感じた光の先には、自分がやるべき使命と未来のあるべき社会の姿が見えていた。「諦める」という選択はなかった。スタッフをはじめ、多くの障がい当事者、家族、福祉関係者、そして市民の皆さんと共に夢を追いかけられることをとても幸せに思う。30年前の自分に「諦める理由探しをしなくてよかったな」と言ってやりたい。



Business Story

株式会社
ゼロへの道のり
代表 高山 さや佳さん

勉強が苦手な、自分に自信が持てない日々。お年寄りとの出会いで、人生が好転し一歩前へ。

私は、千曲市で「宅幼老所和らぎの家」という通所介護施設を運営しています。経営をしている、なんて言うのがとてつとて感じるかもしれません。学生時代の私は「勉強が苦手な自分にいったい何ができるのか…」とネガティブな気持ちで毎日を過ごしていました。何に対しても自信が持てず、親が薦めてくれた動物関係の専門学校へ進学。卒業後はアルバイト経験しかないまま24歳で結婚。2人の子どもを連れて29歳で離婚。「私は何のために生きているのだろうか?」と悩み、泣きながら過ごすこともありました。

そんな私の人生の転機は、32歳で勤め始めた高齢者介護施設での仕事でした。認知症のお年寄りとお過

す時間は「心の居場所」でした。人生で初めて心が震える仕事に出会うことができました。泣いて過ごした日々から考えれば、夢のような話です。

欲しい未来は簡単に手に入れることはできないし、それは欲しかった形とは違うかもしれない。けれど夢を叶えるヒントがあるとしたら、辛さに呑み込まれて諦めてしまわないこと、声に出して伝え続けることだと思います。そんな夢を誰も聞いてくれない時には、私があなたの話を聞きます。私も沢山の人の支えられてここまでできました。今の辛さは、いつかのもっといい日のためにあるのだと信じて、皆さんも一歩前へと進んで行ってください。



Business Story

一般社団法人
生活互助支援の会
理事 美齊津 康弘さん

ある一人のお婆さんの「買い物を手助けしたい!」との思いがアイデアを生み、事業へと発展。

私はケアマネージャーをしています。ある時私が担当するお婆さんから、買い物の相談を受けました。彼女は時々タクシーで買い物に行くのですが、タクシー代だけで5000円もかかり、しかも重い荷物を持って帰るのが大変とのことでした。また彼女はスマホもないのでネットショップも使えません。

そこで私は、電話着信を入れるだけで地域の買い物ボランティアとマッチングできる「えんじよの」というウェブシステムを開発して特許を取得し、実際に私の地元で運用し始めたところ、地域の沢山の高齢者が使ってくれるようになり、ボランティアも100人以上集まったのです。

今後この仕組みを応用すれば、買い物支援だけでなく、外出の付き添いや見守りなど、沢山の助け合い

を生み出せると思っています。いつか私はこの「えんじよの」を使って様々な社会問題を解決したいと思っています。

これまで、自分の夢に向かって様々なチャレンジをしてきました。防衛大学校卒業後、ブルーインパルスのパイロットを目指し航空自衛隊に進むが視力が原因で断念。その後、実業団アメフト選手になり日本一を経験し、オールジャパンにも選ばれる等チャレンジを続けてきました。その後、認知症になった母の介護を経験したことで、介護の分野への取りくみや、ヤングケアラーの抱える課題に対しても取り組みを始めています。

皆さん、大切なことは行動することです。自分の感性を信じてどんどんチャレンジしていきましょう!